「火の用心だより」第140号（令和8年11月）

発行：札幌市消防局予防部予防課

充電式電池からの火災に注意！

近年、電気器具類を原因とする火災が全国的に増加しており、特に充電式電池からの出火が顕著に増加しています。

札幌市内においても発生件数は高い水準で推移しており、昨年の年間28件に対し、今年は10月末時点ですでに24件に達しています。

充電式電池の「正しい取り扱い」と「適切な廃棄方法」を今一度確認しましょう。

身近にあるリチウムイオン蓄電池

充電式電池の多くは、リチウムイオン蓄電池と呼ばれ、正極（＋）と負極（－）の間をリチウムイオンが行き来することで、繰り返し充電・放電ができる電池です。

リチウムイオン蓄電池は、乾電池に比べて「小型・軽量・大容量」といった特徴があり近年、皆さんの身の周りの製品にも多く使用されています。例えば、スマートフォンやノートパソコンのバッテリーや、充電式コードレス掃除機、電動工具バッテリーにリチウムイオン蓄電池が搭載されています。

＜リチウムイオン蓄電池を使用している製品の一例＞



火災予防のポイント

Check！！

- □ むやみに家電製品を分解・修理・改造しない。
- □ ホームページでリコール情報を確認する。（消費者庁 https://www.recall.caa.go.jp）
- □ 湿気の多い場所や、水のかかる場所では使用しない。
- □ 定期的に、機器に深いキズや変形、焦げ跡などの異常がないか確認し、万が一、異常を発見した場合は使用せずに、不燃性の缶等に入れ、販売店等へ相談を。
- □ 耐用年数を超過した製品は使用しない。
- □ 充電器やバッテリーはメーカー指定の純正品を使用する。

正しく廃棄しましょう

リチウムイオン蓄電池が不適切に廃棄されたことにより、廃棄物処理施設等（ごみ収集車・清掃工場等）から出火するケースが相次いでいます。

札幌市では、リチウムイオン蓄電池は“排出禁止物”として収集しておりません。

廃棄する場合は、販売店及び協力店の回収箱へ出してください。



荷箱内でリチウムイオン蓄電池が圧し潰されて出火



荷箱から発見された焼けた蓄電池

詳しくは、札幌市環境局のホームページをご確認ください。

https://www.city.sapporo.jp/seiso/gomi/plastic_separate.html

２次元コード



市民が主役の火災予防

① 火災予防行事・活動に参加しましょう
② 火災予防の知識・行動要領を身につけましょう
③ 消火器などの防災機器を備えましょう
④ 防炎品を使用しましょう
⑤ 放火されない環境をつくりましょう
⑥ 火災から高齢の方などを守りましょう

発行：札幌市消防局予防部予防課
〒064-8586　札幌市中央区南４条西 10 丁目
☎011-215-2040
SAPP_RO
さっぽろ市
02-N06-26-207
R8-2-176